

# 「待合室から医療を変えよう プロジェクト」



- ✓ 人生の中で、医療機関の待合室に足を踏み入れたことが一度もない方は、おそらく一人もおられないと思います。
- ✓ そしてそこがけっして心地よい場所ではなかったことも、皆さんの記憶の中に残っているのではないのでしょうか？
- ✓ 待ち時間を短くする努力はつねに必要です。しかし、来たるべき高齢化社会では、現在ですら大きな需要と供給のアンバランスが、ますます増大していくことは避けられない状況です。
- ✓ そうであるならば、待合室という場で一定の時を過ごさざるを得ないという現実を逆手に取って、**空間的・時間的に有用な医療資源**として再活用する方策を考えることが必要であると思います。
- ✓ 古くより、東洋と西洋のように異質なものが出会う場（=渚）は、新しい智慧や価値や文化が生まれる場となってきました。そしてそれを生み出してきたのが、渚に集う多様性に外なりません。
- ✓ そこでわれわれは、**社会と医療の渚である待合室に多様性を呼び込めば、そこに新しい価値や機能を付与できる**のではないかと考え、さまざまな試みを展開しております。
- ✓ 本日はその一端をご披露いたします。

詳細は裏面へ

# 「待合室から医療を変えようプロジェクト」 概要

背景と目的	<ul style="list-style-type: none"><li>●医療政策実践コミュニティー H-PAC<ul style="list-style-type: none"><li>・東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニットが開催する社会人の自主的研究会 <a href="http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/">http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/HPU/</a></li><li>・医療政策に携わるさまざまな立場の参加者が集い、共同研究の実施や事業計画等の作成・試行を行う</li></ul></li><li>●H-PAC2期生（2012年4月～2013年3月）の有志メンバーにより『待合室から医療を変えようプロジェクト』を立ち上げ</li><li>●2013年4月以降も活動を継続</li></ul> <p>●全国に開業医の待合室が10万、病院の総合待合室が9千、各科待合室がその10倍以上、合わせて約20万もの「待合室」という貴重な医療資源を有効活用することで、最終的には全国的にヘルス・プロモーティング・コミュニティを作りあげていくことを本会の目的にしている。</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>●「待合室を変えようプロジェクト」コンセプトの啓発<ul style="list-style-type: none"><li>・2013年3月28日、第1回シンポジウム開催</li><li>・2013年9月29日 クリニックITフォーラム出展</li><li>・マスメディア等への対応</li></ul></li><li>●待合室の事例分析（医療機関・その他サービス施設）</li><li>●待合室の新たな機能の検討<ul style="list-style-type: none"><li>・各医療機関にカスタマイズした映像コンテンツ作成</li><li>・IT導入による医療者・患者さんへのサービス向上</li><li>・病院レストランの工夫</li><li>・ペイシエントサロン・患者道場の企画</li></ul></li></ul> <p>⇒新たなネットワークとのコラボレーションを通じて、待合室の新たな機能付与の可能性について検討 ⇒待合室学会の設立を検討（未定）</p>
代表	河内文雄（医療法人社団 以仁会） 〒263-0043 千葉県稲毛区小仲台1-4-20 イオン稲毛4F 稲毛サティクリニック内
連絡先	待合室から医療を変えようプロジェクト事務局 ホームページ： <a href="http://www.machipuro.jimdo.com">http://www.machipuro.jimdo.com</a> メール： <a href="mailto:machipuroa@yahoo.co.jp">machipuroa@yahoo.co.jp</a>